

■開催日時

令和5年12月11日（月） 19時00分～21時00分

■開催場所

四季の森生涯学習センター東館 1階 大会議室

■出席者

委員 11名

酒井克典委員長、小山雅充副委員長、森正樹委員、吉良勉委員、  
山田俊朗委員、上田康雅委員、雪岡のり子委員、松浦由美委員、  
畑弘恵委員、西尾雅子委員、山本幸雄委員

オブザーバー4名

畑敏幸丹波土木事務所所長補佐、清水夏樹農都環境政策官、  
古谷重樹地域整備課課長補佐、村上由樹文化財課長

事務局等4名

酒井隆明市長、波部正司観光交流部長、酒井誠商工観光課長、  
岡佳巳商工観光課係長

■欠席者

なし

■傍聴者

0名

■会議の要旨

以下のとおり

- 
1. 開会
  2. 委嘱状の交付
  3. 市長あいさつ
  4. 委員自己紹介
  5. 桜ビジョン検討委員会について  
事務局 | （資料1に基づき説明）

## 6. 委員長及び副委員長の選任

委員の互選により次の通り選任された。

- ・委員長 酒井 克典 氏
- ・副委員長 小山 雅充 氏

## 7. 報告事項

### (1) 市内の桜の管理状況について

事務局	(資料2に基づき説明)
A 委員	補足として、資料2-1の1にある「河川堤防等に植樹」とある表現について、旧丹南町で植樹を始めた際に、実際に許可されたのは「河川の管理道路の端」である。 また、クビアカツヤカミキリも心配ではあるが、市内では未確認である。一番の問題はやはりてんぐ巣病である。てんぐ巣病対策として薬剤散布をするとほかの自然環境に影響する。対策は切除しかない。
B 委員	商工会青年部で病害虫薬剤の散布を年2回、てんぐ巣病の枝の切除を年1回行っている。私自身は10年ほど関わっているが、笹見四十八滝公園、後川峠周辺は桜を識別するのが難しいほど状態が悪い。細工所交差点から北の国道沿いは樹高が高く高所作業車が必要であるため、上部は対策できていない。
C 委員	近年、桜を見に来られる観光客が増えている。それだけ、丹波篠山の桜が注目されている。四季の森周辺でもてんぐ巣病の木が増えている。
D 委員	桜守養成講座は何年目か。どのような方が桜守の認定を受けているのか。
事務局	平成24年から現在までに45人を桜守に認定している。自治会で活動する方、造園業者等に所属する方、個人など様々である。
E 委員	桜の管理をするような事業者は市内にどれくらいあるのか。
F 委員	造園組合の会員は16だが、その他にも造園事業者はたくさんある。
G 委員	管理する園内に大きな桜があるが、病気なのか元気がない。そのような場合にアドバイスをいただくようなことはできるのか。
H 委員	おそらくソメイヨシノで、てんぐ巣病ではないかと思われる。協会桜守として状態を確認させてもらう。
I 委員	現状で桜の管理に係る市の予算はどれくらいか。

事務局	地域整備課の商工会への委託料と、商工観光課の桜協会へのてんぐ巣病対策の補助金、合計で100万円程度である。
J 委員	これまでの桜協会の委託業務に要した費用から換算すると、市内の桜1万本ではどれくらいの予算が必要か。
事務局	場所や木のサイズにもよるが、高所作業車が必要であるような場合は、100万円で100本程度であり、1万本だと1億円という計算になる。また、てんぐ巣病対策は、一度行ったら終わりではなく、継続して行っていく必要があるため、さらに費用を要する。
K 委員	桜の寿命はどれくらいか。
L 委員	ソメイヨシノは人工的につくられたもので、手入れが必要な種である。適切に手入れしていれば100年以上でも生き続ける。
M 委員	桜協会では多くの桜の管理を行っているが、旧丹南町の河川沿いが中心である。桜協会の理事としては、協会が全市的な組織となるよう進めていくべきだと考えている。

## 8. 検討事項

### (1) 市内の桜ビジョンの策定に向けた検討

事務局	(資料3、参考資料により説明) この委員会で検討いただくのは「戦略」までを想定している。具体的な「計画」は、実施主体である市や桜協会、商工会等により「戦略」を踏まえて検討し、取り組みを進めていくイメージである。
N 委員	3回の会議で検討予定ということであるが、委員が桜のてんぐ巣病や植えられている環境の現状を実際に見て、桜の課題について理解を深めた上でビジョンを検討した方がよいのではないか。
酒井市長	会議の回数や期間は問わないので、議論を尽くし、よいビジョンを作ってもらいたい。
O 委員	この委員会の事務局が商工観光課ということであるが、ビジョン策定の目的が観光なのか、てんぐ巣病対策なのか、まちづくりなのかを含め、考えていく必要があると思う。
事務局	桜協会の事務局が商工観光課なので、この委員会についても商工観光課が事務局を持っているが、ビジョン策定の目的は観光だけではないと考えてい

る。地域コミュニティの活性化や子どものふるさと教育にもつながる。市民の方の桜に対する思いを醸成するようなビジョンとして策定していただきたいと考えている。

酒井委員長 ソメイヨシノを対象とするのか、「桜」全体を対象とするのかについても整理をして策定したい。

また、参考事例としてあがっている伊那市がどれくらい予算、どのような体制で実施しているのかなど、検討委員会でビジョンの方向性を定めるために参考となる情報について、事務局で調査しておいていただきたい。

P 委員 100 万円などの限られた予算で市内のすべての桜についててんぐ巣病対策をすることはできない。篠山城跡など、多くの人の目につく場所を重点的に実施していくなどの方針を示していく必要があると考える。

酒井委員長 次回以降の方向性について、いろいろなご意見をいただいた。まずは、理念をしっかりと定めるところから検討し、50 年後、100 年後に桜がつながるようなものとして定めていきたい。

事務局 次回について、小山副委員長からご提案があった現場確認としたい。改めて日程調整するので、できるだけ参加をお願いします。

## 9. 閉会